

レスリー・ジェーン・イールズ・レイノ
ルズ、ブレンダ・ジャッジ、エレイン・
マックリーリー、パトリック・ジョー
ンズ 著、楠見孝、田中優子 訳

『大学生のためのクリティカル シンキング 学びの基礎から教える実践へ』

北大路書房、2019 年
168 頁、2,200 円（税別）

本書は、主として教育学の研究に携わろうとする学生を対象としたクリティカルシンキング (CT) の教科書であり、原題は『教育を学ぶ学生のための批判的思考スキル *Critical Thinking Skills for Education Students*』である。他方で本書は、CT に関する現代的で基礎的な内容で構成されているので、訳者の述べるように、教育学や心理学の学生だけでなく、大学の初年次教育や社会科学系における専門教育の入門用に、また探究学習などに取り組む高校生への教育にも有用だろう。

CT の具体的なスキルについて、本書は Facione (1998, *Critical Thinking: What is and why it counts*, Millbrae, CA: California Academic Press) を理論的背景としながら、CT は「解釈」「分析」「評価」「推論」「説明」「メタ認知」によって成り立つと規定している (1 章)。Facione による CT の規定は、全米哲学会が関わった CT の研究プロジェクトの成果に基づいており、権威と定評のあるものである。本書は、以

上の CT のスキルセットを、全 10 章を通じて育むという構成になっている。

各章は、現代の学生が実際に直面する様々な場面を想定したトピックを扱う。具体的には、課題作成、情報検索、データ収集、文献読解、授業でのグループワーク、さらには教育実習やインターンシップの現場などの場面を通じて、練習問題を解きながら CT のスキル育めるようになっている。レポート作成という、多くの CT の教科書が扱うトピックにおいても、本書は、課題文の分析や、作成した自分のレポートを評価し推敲する方法など、しばしば暗黙知として扱われるようなプロセスに焦点を当て、学生の日々の活動に CT が活かされるよう、配慮している。

現代の高等教育の潮流や学習の環境に対応したトピックも多い。たとえば文献探索を扱う箇所では、オンラインの探索方法だけでなく、Zotero や Endnote を用いた文献管理の重要性を説く。他にも、量的・質的データの収集と分析・解釈、オンライン上での協働学習の方法などが扱われる。

以上のように、本書は学生が取り組む課題から言えば逆算された構成となっており、CT の教科書によくある基礎的な論理学ドリルのような内容を含んでいない。もし教員が後者のような内容も扱いたいのであれば、別途教材を配布すれば良いだろう。

本書には、原書には無い魅力がある。たとえば訳者は「はじめに」において、インストラクショナルデザインの観点から、本書を半期の授業で用いた場合のスケジュール、各回の授業デザイン、予習、ペアやグループワークの仕方など実際の経験を踏まえて示している。また原書はかなり味気ないレイアウトなのだが、学生たちの手に取りや

すいよう、大いに工夫・改善されている。こうした訳者の細やかな配慮もあって、本書はかなり「使える」CTの教科書となっている。

田中一孝（桜美林大学リベラルアーツ学群）